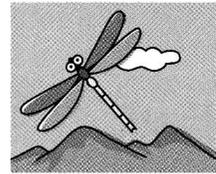


診断あきた

◆発行 社団法人 中小企業診断協会 秋田県支部
郵便物受取先
〒010-8799 秋田市保戸野鉄砲町5-1
郵便事業秋田支店 私書箱第25号
ホームページアドレス <http://www.shindan-akita.com/>



平成23年9月1日

第19号

巻頭言



『新しい時代に向けて』

支部長 工藤 義和

東日本大震災以来の激変を受けて、世は正に新しい未知の世界に入ろうかと思われる様相を呈しています。欧州の金融不安、米国の財政不安が表面化し、各国がその対応に迫られています。

このような状況の中で、我々中小企業診断士の社会的役割は、ますますその重要性を問われていると思われます。今、中小企業診断協会は、公益法人改革の渦中にあり、大きな組織変更の真っ只中にあります。これ等組織改革が成功するか否かは、ひとえに各会員皆様のご協力如何にかかわっていると見られ、会員皆様

には引き続き会務運営に多大のご支援を賜ります様お願い致します。

今回の組織改革を機に、中小企業診断士のあり方も徐々に変化するのではないかと思います。従来のとちらかと云えば、行政の中小企業政策の推進担当者的立場を超え、企業診断市場に於ける需要開拓とビジネスチャンスの獲得という、より積極的対応が求められるでしょう。従ってこれからは既存の診断スキルの修練に努める丈にとどまらず、市場動向に対する先見性も求められます。つまり、市場に機能する診断技術の開拓が急務です。

幸い当秋田県支部は最近若手の新進気鋭の新入会員が増加しております。新旧会員が一致協力して新時代に向かうならば、必ずや明るい未来につながるものと確信しております。会員皆様の更なるご活躍を期待して止みません。

平成23年度 理論政策登録更新研修事業

秋田県支部の平成23年度理論政策登録更新研修は、平成23年9月3日(土)、午後1時から5時迄の4時間、秋田市の「プラザクリプトン 大会議室」で、開催致します。

必修科目である「新しい中小企業政策について」は、柴田誠秋田県産業労働部長を講師に迎え、東日本大震災等の劇的な環境変化の中での中小企業政策についての講義を頂きます。

同じく必修科目である「診断に関する理論及びその応用」では、事前アンケートで御要望の多かった「戦略的CSRによる中小企業の活性化」を選択し、岡本博中小企業診断士を講師に迎え、事例を踏まえた実践的な講義を頂きます。

研修終了後、有志による講師を囲んでのフォロー研修を、活発に行なう予定です。

平成23年度

通

常

総

会

平成23年5月14日(土)、午後4時より、秋田市内「比内や」において、(社)中小企業診断協会秋田県支部の平成23年度通常総会を開催致しました。

会員29名の内、19名(内委任状出席6名)の出席を得て会議は成立し、工藤義和支部長が議長席につき、定刻に総会は開催されました。

総会に先立ち、工藤義和支部長は、東日本大震災の被災者に対し御見舞いの意を表すると共に、業務多忙の折の会員の総会への参加に感謝を表し、今後の公益法人改革への対応等、円滑な会務運営への協力を依頼致しました。

総会議事に先立ち、平成23年度に入り、県内初の女性中小企業診断士を含めた3名の新会員加入があり、この内、総会に参加した2名の会員から自己紹介を頂きました。

引き続き議案審議に入り、「第1号議案 平成22年度事業会計及び決算承認」、「第2号議案 平成23年度事業会計及び予算承認」について総会に諮ったところ、全員異議なく、満場一致で可決承認しました。

また、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県・宮城県・福島県の各支部に対し、見舞い金を送ることと致しました。

「第3号議案 公益法人制度改正への対応に関する件」について、本部作成資料やモデル定款案について検討した結果、小規模支部としての運営実態を踏まえ、更に本部の方針や、近隣支部との連携を考慮し、引き続き情報収集に努め、意志決定を図っていく旨、意見集約致しました。

「第4号議案 支部役員改選に関する件」について、総会に諮ったところ、平成24年4月迄に公益法人改革への対応が求められていることから、これ迄の体制での会務運営を求める意見が多数を占めたため、県外転出等に伴う理事1名と監事1名の補充を行った他は、支部長以下10名を再任致しました。

総会終了後、県内初の女性中小企業診断士の誕生を契機に、更なる飛躍への挑戦を肴に、和やかな意見交換が行われました。



なお、平成23年度の主な事業は、次のとおりです。

【平成23年度における主な支部事業】

- (1)中小企業診断士登録更新研修（理論政策更新研修）の実施
H23・9/3(土) 13:00~17:00
プラザクリプトン
 - (2)調査・研究事業の実施
テーマ
調査研究事業委員会・奇数年度班対応
 - (3)広報活動の強化・充実
会報誌(No.19)の発行や、リニューアルしたホームページにより、積極的な情報提供を行う。
 - ・支部会報の発行 (H23・9/1 No.19)
 - ・支部ホームページでの情報提供 (随時)
 - (4)支部研修の実施
H23・11/26(土) 15:00~17:00
 - (5)公開セミナー(公益目的事業)の実施
プロジェクトチームを立ち上げ、事業推進を行う。
 - (6)支部郵便物受取先一元化
〒010-8799 秋田市保戸野鉄砲町5-1
郵便事業(株)秋田支店 私書箱第25号
- ※この他、公益法人制度改革について、平成24年4月迄に、新たな組織形態での対応が求められていることから、随時、全員協議会や理事会を開催致します。



■ 新たに選任された支部役員一覧 ■

職 名	氏 名	備 考
支 部 長	工 藤 義 和	
副 支 部 長	佐 瀬 道 則	
〃	富 野 忠 雄	総務担当
〃	村 上 明	
理 事	荒 牧 敦 郎	
〃	石 川 聡	新 任
〃	佐々木 正 記	
〃	佐 藤 幸 治	
〃	佐 藤 善 友	情報担当
〃	高 橋 彦	
監 事	熊 井 春 美	
〃	成 田 広 樹	新 任

■ 所 属 委 員 会 ■

委 員 会	委 員 長	委 員
登録更新研修 実行委員会	工 藤 義 和	高橋 彦、佐々木 正記、富野 忠雄
研修委員会	高 橋 彦	荒牧 敦郎、佐瀬 道則、佐藤 徹、 富野 忠雄
調査研究事業 委員会 奇数年度班	高 橋 彦	石川 聡、鎌田 晶子、栗林 祐治、 小池 徹也、佐藤 直伸、佐々木 正 記、柴田 淳、杉山 健一、長谷川 晃、 樋口 清行、古木 智、山崎 孝二
調査研究事業 委員会 偶数年度班	荒 牧 敦 郎	佐藤 徹、富野 忠雄、成田 広樹、 畠山 俊彦、堀 辰生、三浦 雅人
広報委員会 会報誌担当	樋 口 清 行	佐藤 徹、 堀 辰生
広報委員会 HP運営担当	佐 藤 善 友	荒牧 敦郎、佐藤 徹、成田 広樹
総 務	佐藤 徹(部長)	



新会員紹介



鎌田 晶子

はじめまして

この度、中小企業診断協会 秋田県支部に入会しました鎌田晶子です。

平成22年度の中小企業診断士試験に合格後、宮城県において実務補習を受けておりましたが、先の震災の影響により、中小企業診断士登録および中小企業診断協会への入会が5月1日付となりました。

私は上智短期大学の英語科を卒業し、総合商社の繊維経理部に十年ほど勤務した後、主人の海外転勤を機に退職し、現在は中学生と小学生の子供を持つ秋田市在住の主婦です。

主婦を続けながらも社会と繋がってほしいという希望を叶える第一歩となるのでは、と思ったのが中小企

業診断士の資格取得を目指したきっかけです。

中小企業診断士の資格取得を通じて、広範囲な知識を体系的に学習する機会に恵まれたことに加え、ロジカルシンキングや問題解決力といったビジネススキルの修得にも役立ち、私にとって大きな収穫となりました。

現在興味を持っている分野は、生活に密着した主婦目線での販売やマーケティングのほか、企業内インストラクターの経験を活かした仕事にもチャレンジしたいと思っています。

また、将来的にはワーキングマザーを支援する仕組みを作っていきたいという夢があります。

様々なバックグラウンドを持って活躍されている中小企業診断士の皆さまとの交流から刺激をいただきながら、私も診断士の一員として社会に貢献できるよう努力していく所存です。

今後、会員の皆さまからのご指導やご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



柴田 淳

生 年 1977年

所属事業所名 財団法人あきた企業活性化センター

業 歴 2011年4月 中小企業診断士登録

得意分野 経営戦略策定（サービス業）、組織管理・人材教育

保有資格 中小企業診断士

フードコーディネーター2級（専門：レストランプロデュース）

連絡先 E-mail j.shibata@gmail.com

自己紹介 サービス業、特にフードビジネスにおける経営戦略の策定等を得意分野にしているほか、少子・高齢社会におけるサービス業の在り方、異業種連携等による新ビジネスの創出、ワーク・ライフ・サービスの推進等について関心を持っております。知識も経験も不十分ではありますが、秋田の企業活性化に少しでもお役に立てるよう邁進すると共に、研鑽を積む努力を怠らず日々成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。



長谷川 晃

生年月 1955年(昭和30年)11月

勤務先

社名 アーセプトコンサルティング株式会社
(旧社名:株式会社長谷部会計マネジメント)

住所 〒010-0952 秋田市山王新町19-41

電話 018-893-5385

FAX 018-893-5386

E-mail: arcept.c-ah@clear.ocn.ne.jp

保有資格

中小企業診断士
1級ファイナンシャル・プランニング技能士

自戒の言葉

偉そうな口はきかない。知ったかぶりをしない。自説の押し売りはしない。

自己紹介

東日本を襲った大震災の日、私は32年間勤め上げた秋田銀行の退職を目前に控えていました。後任者への引継ぎを終えた後は休暇に入る予定でしたが、もはや休暇どころではありません。長引く停電や被災地の支店への対応など、次々と持ちあがる問題を矢継ぎ早に処理していく同僚たちを助けながら、3月31日の

退職日を迎え、後ろ髪をひかれる思いで職場を去らなければなりませんでした。

こうした最中に、中小企業診断士資格取得の通知が届きました。1次試験から数えて4年におよぶ悪戦苦闘の末に、ようやく手にした資格でした。

実は、昨年12月に、現在の勤務先が中小企業診断士の有資格者を募集していることを知り、早速応募したところ運よく採用が決まったのですが、当然ながら採用までに資格を取得することが条件となりました。

中小企業診断士の資格取得には、試験合格後に合計15日間の実務補習が必要です。通常は5日間の実務補習を計3回受講しますが、私の場合、最終となる3回目の補習は、仕事の都合で、退職直前の2月となりました。その翌月に受講地の仙台市が甚大な被害を受けたことを思うと、被災地の皆さんには本当に申し訳ないのですが、震災直前に実務補習を完了できた幸運を心から感謝しました。(もちろん、受講当時、震災発生を予想できた人は、私を含め誰もいませんでした。)

現在の私は、プロの診断士としてはまだまだ新米です。しかし、32年のお世話になった地元秋田の企業の皆さん、そして今回の震災で様々な困難に直面している東北の企業の皆さんへのご恩返しのお返しは人一倍だと自負しております。中小企業の皆さんに頼られ、親しまれる診断士に一日でも早くなれるよう、日々精進を続けてまいります所存です。

支部ホームページの活用について

平成22年7月24日、「HP運営委員会」で、次の決定を行っております。

①HPの基本的設計視点

「わかりやすさ(ユーザー視点に立った分かりやすい表現&サイト構造+ビジュアル化-写真活用-)+「信頼性(イメージカラー等トーンの統一化&会員の顔の見える化)」+「更新のしやすさ(ワードプレスでの手軽な更新)」を、基本とします。

②生命線は、リアルタイムでの情報発信

会員がリアルタイムで自由に情報発信できるHP-皆が書き込めるHP-を指向します。

③サイト構成

トップ ニュー・トピックス、アクセス、a事業内

容(協会事業内容・会員一覧)、bトピックス(活動実績-調査研究事業・会報誌等-)、c一般・経営者の皆様へ(事業受託可能な会員の紹介・支部研修&公開セミナーの案内等)、d中小企業診断士の皆様へ(理論政策登録更新研修の案内・支部研修&公開セミナーの案内等)、e関連リンク、f問合せ、で構成致します。

④「ワードプレス」の講習会

H23・2/19に、全会員を対象に、リアルタイムで情報発信が出来る様に、「ワードプレス」の講習会を開催致しました。

☆皆様の使い易いホームページを目指しております。是非、御活用下さい。

新役員紹介



理事
石川 聡

このたび理事に就任することとなりました。平成5年に中小企業診断士登録を行い、地域金融機関に勤務する企業内診断士として活動させていただいております。今年3月の大震災以降、景況はいまだ不安定で、地域経済においても厳しい状況が続いております。

地域経済の活性化には、地域企業の進展・伸張が欠かせないことはいまでもありません。地域企業の育成による地域活性化に私ども中小企業診断士としての役割が求められていると思います。

ここ数年、地域密着型金融が、恒久的な地域金融機関の活動としての位置づけとなっています。地域密着型金融とは、リレーションシップバンキングと同義の意味で、金融機関が、長期的な取引関係により得られた情報を活用し、対面交渉を含む質の高いコミュニケー

ションを通じて融資先企業の経営状況等を的確に把握し、これにより中小企業等への金融仲介機能を果たすこと。」と定義されています。

地域企業の発展には、私ども診断士もより深い関わり方が必要となってきます。これまで以上に地域密着、企業サイドにたった目線でのコンサル活動が求められているものと思います。

金融マンのバイブルと呼ばれる著書に「銀行業務改善隻語」があります。これは、昭和二年、金融大恐慌発生直後、日本の金融界の大混乱を目の当たりにし、一瀬桑吉氏が銀行業界の将来および当時の社会情勢、人心の乱れを憂えて書きしるしたものです。そのなかの業務推進の要諦として「元来、銀行は顧客に対して、親切なる相談所とも云うべく、互に杖となり、柱となるべき間柄なり。故に相倚り相援くる本旨に基き、相互に表裏なく、営業の実況を諒解せしむるを要す。」とあります。

会員の皆様とともに、中小企業診断士として、金融マンとして、地域企業の育成・支援に引き続き尽力していく所存ですので、よろしく願いいたします。



監事
成田 広 樹

今年度より監事を拝命させていただくこととなりました。まだまだ若輩者ではありますが、精一杯勤めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

自己紹介の代わりというわけではありませんが、私が最近考えさせられた対照的な出来事について述べさせてもらいたいと思います。

6月に東京に旅行してきました。これは父親の古希の祝いにと子供達で企画したものです。地震から間もないこともあり、色々心配なことあったのですが、両親が元気なうちにと、思い切って行ってきました。その一日「はとバス」のツアーに参加したのですが、やはり地震の影響で観光客は少なく、道路も比較的空いていて、どこに行っても早く着いてしまって予定の時間まで現地待機しなければならないような状況でした。築地の場外市場や浅草の浅草寺にも行ってみました。田舎者の私にはそれでも大変な人混みに思えたのですが、ガイドの話では両方ともかなり空いていて、普段は身動きが取れないほど混雑しているのだそうです。日本全国のみならず世界中から人を呼び込む東京のバイタリティを再認識させられました。

そして8月には中学校の同期会がありました。42歳の厄払いは数年前に終わっているのですが、今回集まった理由は、来年の3月でこの母校が無くなってしまいうから。来年4月からは旧平鹿郡の近隣3町村地区の中学校を統合した新しい学校が出来る予定です。

中学校では私たちの時は各学年3クラスあったのに現在は2クラスになっていて、使われていない教室が幾つか在りました。もう既に私の卒業した小学校は旧大森町内で統合校が作られて、無くなってしまっています。過疎化と少子化の流れの中で、避けられないことと理解するのですが、やはり、寂しいものです。

この3ヶ月の間に今の日本の2面性、すなわち、文化の最先端を走り、国内のみならず、世界中から人々を引き寄せる東京と、人口が減少し、コミュニティの維持も困難になっている地方の現実を実感させられることとなりました。私の田舎のような地域は今後人口が減少してくれば、様々な施設の維持が困難になってくるでしょう。そこでは地域全体が統合集中する必要があると考えます。反対に東京は、都市としては限界に近づいているのではないかと、特に東海地方は今後30年間で80パーセントの確率で大地震が起こることが予想されています。その時には今回の震災と比較にならないほどの被害と政治経済の機能麻痺が想定されます。東京の機能は分散させなければならないでしょう。日本のグランドデザインとして「新しい分散と集中」を考える必要があると思った23年度上半期でした。

連載



『般若心経とは』

～その8～

中小企業診断士

樋口清行

村木元厚労省局長に無罪判決が出た。議員からの圧力で実体のない団体を、障害者団体と認める証明書を発行したとされるこの事件について、土本武司筑波大教授は「捜査はしばしば、初期段階で描いた構図に沿って行われてしまう傾向がある。その構図に合わない供述はウソと決めつける状況に陥りがちだ」と述べている。人間の思考方法は、前提を認めるならば、結論も必然的に認めざるをえない演繹法と、個々の具体的事実から一般的な命題ないし法則を導き出す帰納方の二つに大別される。われわれ一般の考え方では、ものとして存在しているものはすべて自性(実体)を持っているから、そのものとして認識できるのであり、そのものが存在する限りは、その自性は失われることは無いと考える。それは外界に存在するものだけではなく、心の作用である怒りというものを考えるときでも、怒りという実体があるものと考えやすい。つまりわれわれが個々のものを観察して、その共通性を抽象し、そのものの概念をつくり、その概念に対応するものが、そのものの中に存在すると考えるからである。

社会通念として事物の概念を作ることは、思考を進める上で極めて便利であり、さらに概念に対応するものを考えるのも当然の成り行きであるが、仏教では概念に対応するものを実体視するわれわれが慣れ親しんでいる考え方そのものが、誤りであると指摘するのである。何故なら怒りというものも、これは縁起によった心作用の一つにすぎないのであるにもかかわらず、一端「怒り」という概念が作られると、その概念に対応する怒りという実体があり、怒りの対象となる事象があるに違いないと思いこんでしまうのが、一般人の通弊であるからである。縁起で生じたものはもともと実体のない空なるものであり、実体のない怒りに固執することが、無明の状態に陥ることであり、ここから全ての迷妄と苦しみのループが紡ぎ出されるのである。そして自分の無知ゆえ招いた苦しみを、他人に転嫁するために常に犠牲者を必要とする。

無明に陥っているものは騙されやすい。事実、無罪判決が出るまでは、マスコミは村木氏側からの反論を掲載することも殆どなく、一般人もマスコミから氾濫

する情報の真偽を確かめることもなしに、権力と癒着した悪徳官僚として村木氏を貶していたではないか。演繹法で描いた構図を確かめるためには、構図に合わない供述内容であれ物証や他の供述内容との整合性から検証していくのが帰納方の正しい推論であるのに、検証の積み重ねを怠りなおかつ関係者に供述を翻されるなど、検察は公権力を担う者としての責務を全うする自覚を欠いていた。こうした風潮が司法の場に蔓延すれば、戦前の特高警察を始め多くの冤罪事件をでっち上げたように、被疑者や関係者に構図に合う自白や証言を強要し、些細な供述や現場証拠を拡張解釈し、無実の者を罪に陥れる公権力による犯罪を横行させることになる。

私が先に述べた般若心経~5~6~で二元論と一元論を思い出して欲しい。こうした場合の仏教の一元論は、相対立する見解には組みしないということである。両論併記とか足して二で割るという考え方ではない。対立するどちらの意見にも頼らず中立の立場を守り、幾つかの意見を配慮してどちらにも入らない、最上のもう一つの案を導き出すことに努めることを「中道」という。それは単純な意見合わせではなく客観的にかつ合理的に、SWOT分析のように長短、ベネフィット、メリット、デメリットを勘合してチャートを作って計算してみると、もう一つの案があらわれてくる。出された幾つかの案を合せただけでなく、それを材料にして新しい結果を出すことに努めるのである。現象を「空」であると見て囚われることなく無知の状態である「怒り」から離れて、事象を分析し見極める基本的態度を維持せよというのが仏教の処方箋である。

最近の臨床心理学では、考えたことと現実を混同してしまうことをfusionという、人間は言葉でバーチャルな現実を作り出す力を持っているため、映像や読書で理解し感動したりして、一度も体験したことのないことでも効率的に身につけることができる。反面、間違ったことを考えてしまっても、それを現実と認識し反応してしまうのである。フュージョンした状況自体が苦痛をもたらすので、想像できる厭な状況だけでなく、それに対する自分の反応、思考、感情、体験をも回避しようとすることで、逆に不安や落ち込みが強まり、人との接触を避け引きこもり状態に陥る。このように人間は現実の世界と言葉で作りに出されたバーチャル世界との二重構造の中に生きている。他方、動物は遺伝子に組み込まれた本能と体験による行動と反応学習により、五感で知覚できる世界の中だけで生きているので、迷いというものが全くない。この違いは驚くべきことである。

● 支部会員一覧 ●

(五十音順、H23・9/1現在)

氏名	所属等	相談対応 連絡メール	氏名	所属等	相談対応 連絡メール
荒牧 敦郎	㈱秋田銀行		柴田 淳	(財)あきた企業活性化センター	j.shibata@gmail.com
石川 聡	㈱秋田銀行		杉山 健一	㈱秋田銀行	
植竹 康朋	日本通運 ㈱		高橋 彦	自 営	gencakita@yahoo.co.jp
鎌田 晶子		am_km33@cna.ne.jp	富野 忠雄	秋田県庁	tomino-f@tune.ocn.ne.jp
工藤 義和	工藤税務会計経営 診断事務所	TEL 0182-32-9237	成田 広樹	高井会計事務所	h_narita@palette.plala.or.jp
熊井 春美	いなにわグループ		長谷川 晃	アーセプトコン サルティング ㈱	arcept.c-ah@clear.ocn.ne.jp
栗林 祐治	㈱北都銀行		畠山 俊彦		
小池 徹也	㈱北都銀行		畑沢 健	㈱北都銀行	
斉藤 豊	自 営		樋口 清行	自 営	dogenzen@hana.or.jp
佐々木 正記	㈱北都銀行		古木 智	北都総研 ㈱	
佐瀬 道則	MSコンサルティング	msconsul@hotmail.co.jp	堀 辰生	秋田市役所	
佐藤 幸治	自 営		三浦 雅人	㈱秋田銀行	
佐藤 徹	秋田県庁		村上 明	(有) アイム	a-murakami@aim-iso.com
佐藤 直伸	㈱秋田銀行		山崎 孝二	自 営	ymzk-425@cna.ne.jp
佐藤 善友	(有) G F C	gfc@gfcweb.info			

編集後記

東日本大震災から約半年、原発放射能事故の影響と相まって、国民の意識は脱原発の潮流へと変化しつつある。強力な指導方針を打ち出せない政界を傍目にみて、打ちひしがれてなお、なでしこジャパンの優勝に、甲子園で能代商業の躍進ぶりに歓喜し、光星学院に東北初の優勝旗を持ち帰る夢に胸を膨らませた、暑い夏を振り返るけなげな東北人たちよ。胸の想いを熱く語り、もっと人に優しくなれる社会を創造しよう。されど難問は山積、成田監事が指摘する「新しい分散と集中」は杞憂を晴らす処方箋となろう。迫りくる最悪の事態に備えるのが英知というものだ。想定外という言いわけは止めよう。

新入会員も増えた。この協会を新しい問題意識を発酵醸造する場にしよう。禅語では「過去不可得、未来不可得、前後裁断」という。即今、呼吸をしている真只中にこそ無限の可能性がある。

(編集委員長 樋口 清行)